

- 5) 乳児期難治性下痢症
- 6) その他の良性の吸収不良症候群

(注14) 「随時」とは、6か月の観察期間中に4週間程度の頻度をいう。

(注15) 「経腸栄養法」とは、経管により成分栄養を与える方法をいう。

※ 手術時の残存腸管の長さは腸間膜付着部の距離をいう。

※ 小腸切除（等級表1級又は3級に該当する大量切除の場合を除く）又は小腸疾患による小腸機能障害の障害程度については再認定を要する。

※ 障害認定の時期は、小腸大量切除の場合は手術時をもって行うものとし、それ以外の小腸機能障害の場合は6か月の観察期間を経て行うものとする。

(表1) 日本人の推定エネルギー必要量

年 齢 (歳)	エネルギー (kcal/日)	
	男	女
0～5 (月)	550	500
6～8 (月)	650	600
9～11 (月)	700	650
1～2	950	900
3～5	1,300	1,250
6～7	1,350	1,250
8～9	1,600	1,500
10～11	1,950	1,850
12～14	2,300	2,150
15～17	2,500	2,050
18～29	2,300	1,700
30～49	2,300	1,750
50～64	2,200	1,650
65～74	2,050	1,550
75以上	1,800	1,400

「食事による栄養摂取量の基準」 (令和2年厚生労働省告示第10号)